

# 1989年、厚田の夜空の“赤い光”

昨年、厚田小学校に掲示されていた写真パネルを見せてもらい、驚きました。厚田の小谷で撮影されたという夜空が写っているのですが、北の空が真っ赤に輝いているのです。撮影日は1989年10月21日と書かれていました。この同じ日、陸別や稚内、北見など道内各地でも同じく夜空の赤い光が目撃されています。実はこれはオーロラだったのです。

オーロラと言っても、写真やテレビでよく見るような、北極や南極の夜空で緑色のカーテンが揺らめくものばかりではありません。地平線近くの夜空がぼんやりと赤く光るタイプもあり、

これは極地から離れた地域（緯度の低い地域）でまれに見られることから「低緯度オーロラ」と呼ばれています。

29年前にこの写真を撮影したのは札幌市の天文愛好家、川又一生さんでした。話を聞いてみると「まるで山火事のように空が真っ赤だった」そうです。

オーロラの原因は、太陽から飛んでくる電気を帯びた粒子です。粒子が地球に届くと地球磁場の影響で北極・南極



1770年に濃尾平野で目撃された赤気（低緯度オーロラ）  
「猿猴庵随観図絵」（国立国会図書館所蔵）より

のまわりから大気に突入しますが、そのとき高速で空気の原子と衝突して、発光するのです。空の低いところでは緑色に光りますが、高いところ（高度約200 km以上）では空気の状態の違いから、赤い光が出るのです。太陽活動が活発な時期や大きな太陽フレア（太陽表面での爆発）が起きたときなど、大きなオーロラが発生したら、北極から遠く離れた日本でも、その光が赤い光だけに見えることがあるのです。

赤いオーロラは、北海道だけでなく、ごくまれに本州で見られることもあります。昔から「赤気」などと呼ばれ、日本書紀には西暦620年の赤気が記されていますし、江戸時代、1770年の赤気は本州どころか九州でも確認されたほどです。

実はこの写真のことを知る少し前ですが、2017年9月にも、NHKのカメラマンが石狩市で弱いながらも赤いオーロラを撮影したというニュースが流れていました。場所は厚田区聚富。石狩市内でオーロラが見られるとは思っていませんでした。しかも2回もあつたとは。これから、ときどき夜空を見上げるようにしていれば、いつか3回目に出会いかもしれませんよ。

（志賀健司）



1989年に厚田で撮影されたオーロラ。画面中央、地平線付近の空が赤く光っている（撮影：川又 一生さん）



撮影地点の現在の様子



石狩市学芸員  
志賀健司 Kenji Shiga

専門は地質学・漂着物理学・海辺学。地球の環境の変遷などを調べるとともに、石狩の浜辺にどんなものが漂着し、それがどんな意味を持っているかを研究している。

関文化財課 いしかり砂丘の風資料館 ☎62・3711 ※火曜休館

ERIS 「いしかり博物誌」は、えりすいしかりネットテレビ(<http://www.i-eris.tv/>)でもご覧いただけます。

# まちの話題



マークの付いた行事は「えりすいしかりネットテレビ」でもご紹介しています。HP <http://www.i-eris.tv/>

7/7(土) 場所／あいろーどパークほか



厚田自然散策ツアーが行われました！

あいろーどパーク内のボクサナイエリア自然散策路と聚富原生花園を巡るツアーに14人が参加し、NPO法人いしかり海辺ファンクラブの案内で厚田の自然の魅力を満喫しました。

ガイドの皆さんの豊富な知識に驚きました。今まで目にしてきた植物の名前を知ることができ、大変楽しかったです。また機会があれば参加したいです



発足在住  
みま 康子さん

7/29(日) 場所／石狩浜海浜植物保護センター



流木アート

流木で石狩海岸によく見られる野鳥を作りました。今回の「流木野鳥」は初めてのテーマでしたが、皆さん楽しく、個性あふれる作品が次々と出来上がりました。

流木アートは、鳥の胴体選びがむずかしかったです。かもめのからだは流木で、羽は貝がらで作りました。岩もゴツゴツした貝で、海にある材料でいろいろできたのがおもしろかったです



花川南小学校1年  
藤田 結衣凧ちゃん

8/1(水) 場所／学び交流センター



俳句実践教室

NPO法人石狩市文化協会による俳句実践教室。参加者は季語・定型・推敲など俳句の上での約束事などを学び、俳句の面白さを知る機会となりました。

今回の実践教室を含め、ひとりでも多くの市民の皆さんに俳句の楽しさに触れていただき、歴史ある石狩の俳句文化普及に向けて、今後も努めていきたいと思ひます



石狩市文化協会事務局  
棚橋 文男さん

7/15(日) 場所／市民図書館



「子母澤寛の世界」特別講演

厚田村(現石狩市)が生んだ時代小説の巨匠・子母澤寛の没後50年を記念した講演。市民図書館が所有する直筆書簡から人情深い人柄を読み解いていただきました。

厚田で生まれた子母澤寛は「新選組始末記」で新選組の真価を世に広め、「座頭市物語」の原作者でもあります。私はその魅力を伝えたいと、石狩を離れた今も活動しています。地元の方にはぜひ子母澤文学に触れてほしいと願っています



函館市中央図書館  
館長 丹羽 秀人さん

7/31(火) 場所／花川北コミセン



体験自然エネルギー教室  
夏休み親子でミニ風車づくり

夏休み中の小学校1～4年生が、ペットボトルを使ったLEDライト付きのミニ風車づくりに挑戦。石狩の風車についてもクイズ形式で楽しく学びました。

前にお兄ちゃんが楽しそうだったので、お母さんと来ました。ちゃんと電気がついてとてもおもしろかったです。夏休みの自由研究として学校にも持っていきます



花川小学校1年  
川上 月愛ちゃん

8/4(土) 場所／浜益漁港南埠頭(ふとう)



「サマライベント」  
「浜益みなと祭り」

浜益地区の地域活性化を図るため、サマライベント「浜益みなと祭り」を開催。ビアガーデンや花火などで地域住民が盛り上がりました。

今回で5回目を迎えましたが、年を増すごとに盛大になってきました。来年はこれまで以上に楽しいイベントにしていきたいと思ひます。皆様のご協力を期待しています



石狩湾漁協浜益地区青年部  
のりく 石川 典嗣さん